

W32-SC72001/SC72002/SC72005

岩通計測

ユニバーサルカウンタ

SC7205/6/7

使用できる機種

SC-7205, 7206, 7207
SC-7101, 7102, 7103, 7104
SC-7201, 7202, 7203, 7204

SC-7100, SC-7200シリーズは、岩通計測社の商標です。

	ソフト品番	GP-IBボード	価格	動作環境
1台 接続用	W32-SC72001-N	NI製	95,000円	Windows 7/8.1/10/11 (64bit版) MS-Excel 2010/2013/2016 2019/2021 (32bit版Only)
	W32-SC72001-R	ラトックシステム製		
2台 接続用	W32-SC72002-N	NI製	160,000円	
	W32-SC72002-R	ラトックシステム製		
5台 接続用	W32-SC72005-N	NI製	320,000円	
	W32-SC72005-R	ラトックシステム製		

機能



・データロガーのように連続的にデータを取込みます。

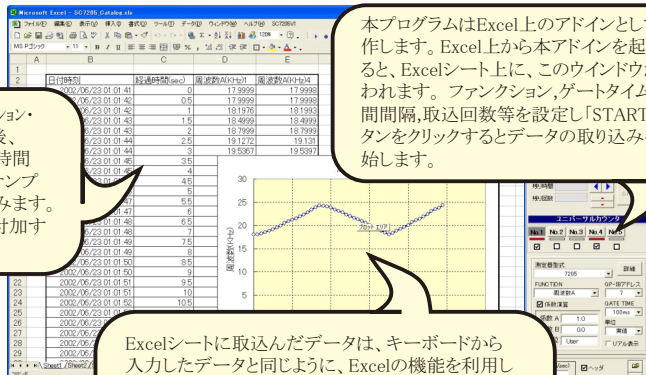
指定した時間間隔で指定した回数(Max 200,000回)の測定データをリアルタイムにExcelシートに取込みます。ファンクションやゲート時間等の設定は全て自動的におこないます。

・ステップ動作により製品検査に利用できます。

被測定物を取り換えながら、測定ボタンをクリックする毎に、個々のデータをExcelシートに取り込みます。

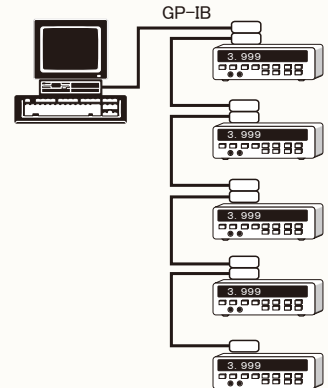
概要

スタートすると、ファンクション・ゲート時間設定した後、指定されたサンプリング時間間隔で、指定されたサンプル数のデータを取込みます。必要なら日付時刻も付加することもできます。



本プログラムはExcel上のアドインとして動作します。Excel上から本アドインを起動すると、Excelシート上に、このウィンドウが現われます。ファンクション、ゲートタイム、時間間隔、取込回数等を設定し「START」ボタンをクリックするとデータの取り込みを開始します。

Excelシートに取込んだデータは、キーボードから入力したデータと同じように、Excelの機能を利用して、作図・編集・計算等を自由に行うことができます。また、事前にデータが取込まれる領域をExcelのグラフウィザードで設定しておけば、データ取込とグラフ化がリアルタイムに行えます。
※本アドインに自動グラフ作図機能はありませんので、Excelのグラフウィザードを使用して作図してください。



測定器の設定

注1)SC7205,7206,7207のデリミタは、LF+EOIに設定してください。その他は、CR/LF+EOIに設定してください。

測定器からデータの取込を開始します。「PAUSE」を先に押してから「START」を押すとスポット測定モードになります。

測定器の型式を設定します。

測定するファンクションを設定します。

測定値に演算処理して、Excelに入力する場合にチェックを付けます。

演算処理した結果をExcelシートに入力する場合の、演算係数A,Bと、その単位を入力します。
入力値 = (測定値 - 係数B) * 係数A

データを取込む時間間隔を入力します。ここで入力した時間と実際の時間間隔では若干の差異が発生します。何も入力が無い場合やゼロが入力された場合は、最速でデータを取り込みます。入力できる最大時間は、3600秒です。

データを取込む回数を指定します。但し、「STOP」ボタンでいつでも中断できます。また、何も入力されていないときは、200,000回と解釈されます。入力できる最大回数は、200,000回です。

GP-IBで接続したその他の測定器からのデータを同期を取って取込む場合にチェックを付けます。(詳細は次ページを参照)
注)製品により、外部測定器が表示されず、不感時間の入力が表示されます。

データの取込を一時中止します。もう一度クリックすると、取込を再開します。

データの取込を停止します。

「PAUSE」中、有効となり、クリックする毎にデータを取り込みます。

測定条件を入力する機器番号を選択します。1台用のソフトでは表示はありません。

使用する場合はチェックを付けます。1台用のソフトでは表示はありません。

A,B各チャンネルの測定条件の詳細設定を入力します。SC-7205,7206,7207の型式が選択された場合だけ表示されます。

測定器本体で設定したGP-IBアドレスと同じ値を設定します。

ゲート時間を設定します。本ソフトを使用してデータ取り込みを行なう場合、「SGL」が選択可能なファンクションでは、通常「SGL」を選択します。

Excelへ入力する時の単位を設定します。係数演算を行なわない場合に設定が可能です。



チェックを付けない場合は、全ての測定器からのデータを取得した後、一括してExcelシートへ入力しますが、チェックを付けると、測定器からのデータの受信と同時にExcelに測定データを入力します。従いまして、Excelへのデータ入力順序は、早くデータを受信した順番になります。測定器1台用のソフトでは、この機能は意味を持ちません。

入力した全ての測定条件をファイルに保存したり、読み出したりします。

最初のデータ取込時、測定項目名等のヘッダを付加します。

データの入力と共にシートをスクロールします。

データに日付時刻を付加します。

測定開始後の経過時間を付加します。

A,Bチャンネルの詳細設定

各チャンネルの入力カップリングを選択します。

各チャンネルのトリガスロープを選択します。

ストップ・インヒビット値を入力します。(Bチャンネルだけ)



トリガをオートにする場合はチェックを付けます。

トリガの電圧レベルを入力します。

ローパスフィルタをONにする場合はチェックを付けます。

アッテネータをONにする場合はチェックを付けます。

スポット専用測定モードの使用方法

「PAUSE」ボタンを先にクリックして、その後「START」ボタンをクリックすると「スポット測定モード」になります。測定器の設定が行われた後、「SPOT」ボタンのクリック待ちとなります。「SPOT」ボタンをクリックする毎にデータがExcelシートに取込まれます。この時「SPOT」ボタンをクリックする代わりに「スペース」キーを押しても同様の結果となります。この「スポット測定モード」では、「経過時間」の欄には1,2,3...と「連続番号」が入力されます。

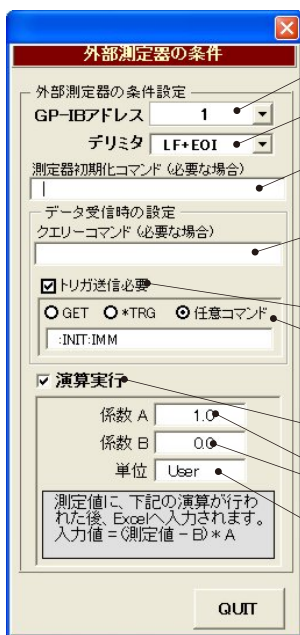
例えば、被測定物を取り換えながら、個々の被測定物の測定を行う場合に便利です。「スポット専用測定モード」を終了するためには、「STOP」ボタンをクリックします。

外部測定器(マルチメータ等)の設定方法

外部測定器とはGP-IBでパソコンと接続されている必要があります。(下図)

外部測定器から送られてくるデータのフォーマットは、ASCIIであり、複数のデータの場合(Max10個)、データ間はコンマで区切られている必要があります。

注)外部測定器からのデータ取り込みは、全ての測定器との通信を保証するものではありません。



外部測定器のGP-IBアドレスを設定します。

測定器のデリミタを設定します。通常は、LF+EOIです。

測定開始前に、測定器に送信するコマンドがある場合は、ここに入力します。ファンクションやレンジ切換えのコマンドを入力します。通常は空欄です。

もし、外部測定器からデータを受け取る時、クエリコマンドを事前に送信する必要がある時、ここに送信するクエリコマンドを入力します。ほとんどの場合、空欄でOKです。もし、マルチメータがSCPIコマンド準拠のものでしたら、下記のコマンドのどれかが使用されます。
:READ? :FETCH? :MEAS?

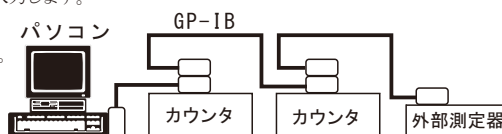
外部測定器のデータ受信時にトリガが必要な時、チェックを付けます。

「GET」、「*TRG」、「任意コマンド」からトリガの方法を選択します。通常は、「GET」の選択をします。「任意コマンド」を選択した場合は、トリガコマンドをテキストボックスに入力します。

外部測定器のデータに演算処理を行うときにチェックします。複数のデータが受信された場合は、その全てのデータに、下記に入力した演算が行われます。

取り込んだデータに、下記演算を行った後、Excelへ入力します。
Excelへの入力値 = (測定器データ - B) * A

ヘッダとしてExcelへ入力する事項をここに入力します。空欄の場合、「外部測定器」が入力されます。



接続例